

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2018年9月号(年3回発行)第148号

## センター大ピンチ

2市1町の首長さんにも来ていただいて第20回総会が終わりました。今年のセンター来訪者は3,536人。生活相談件数は589件。そのうち仕事先を紹介して欲しいと来た人は49人で皆元気に勤め始めました。日本語教室参加者は295人。子どもクラブの受講生はのべ994人。中学3年生は全員無事に高校入試に合格しました。

7ヶ国語による生活情報誌は226号に達し、県内はもとより全国的にも格段の発行記録です。HPからの閲覧も年45万件を超え、在住外国人が十分活用していることがわかります。

この他にもパソコン教室、料理教室、国際交流サロンの開催など、地域に暮らす外国人が孤立しないように、顔の見える関係になるように、安心安全な街づくりを目指して様々な行事を行い、事業面では順風満帆の1年を過ごすことができました。

ところが決算の結果は215万円の大赤字でした。センターは全て無料でサービスを提供しているからです。相談も日本語指導も子どもへの学習指導も情報誌も全部無料です。県から委託されているDV被害母子を預かるためのシェルターの事業収入で全体をまかなっていた状態で、今まではなんとか活動ができていました。ところがここ1年半シェルター利用者がいないのです。DVで逃げてくる人がいないのです。200万円の見込み収入がゼロだった上に印刷機の破損という事態が発生しました。

センターの年間事業費のうち地代家賃がおよそ137万円かかります。でも拠点があればこそできる活動なので、拠点を維持することは必要不可欠です。

人件費は約500万円です。スタッフ延べ人数2,106人の実働時間で換算すると、埼玉県の最低賃金1時間871円の2分の1で、このほかにも大勢の方にボランティアをしてもらっています。

水道光熱費・通信費・消耗品費などを合計すると983万円が必要です。

今年度もシェルター利用者はいません。このままでは今年も大赤字を免れそうにありません。5年もすると蓄えも底をついてしまいます。お願いします。どうか、みなさんの知恵や力を貸してください。



平成30年度総会11月18日(日)のお知らせ(7p)

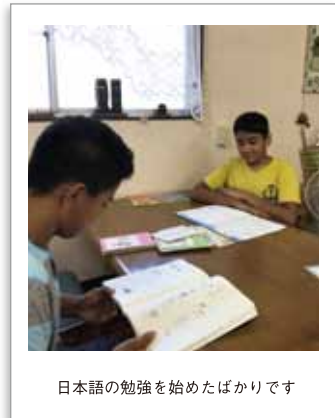
# 夏休みの《国際子どもクラブ》

夏休み初日の土曜日、9時に事務所のシャッターを開けると同時に駆け込んできたのは、中学1年生の中国人の男子。

「今から1ヶ月間、長野の親戚の家に泊まりに行くので、勉強休んでいいですか?」と、伝えに来てくれました。言い終わるやいなや、20分かけて来た道を、自転車で帰って行きました。

以前は、夏休みになると、宿題を抱えた小学生が平日や土曜日に勉強に来たものです。最近は、家族で旅行やレジャーに出かけるようで、あまり姿を見せなくなりました。学習が終わった後、みんなでトランプやおセロに興じる楽しそうな姿は、9月までお預けになりそうです。

その代わりに、平日や土曜日にちょくちょく顔を見せるのは、試験勉強や論文書きに忙しい、中・高・大学生です。学年が上がるにつれ、勉強内容も難しくなり、支援するボランティアも頭をフル回転させて、一緒に勉強に励む日々が続いています。来春の高校受験や大学受験に挑戦するため試験勉強に励む生徒。大学の課題を、講義やテキスト、自分の選んだ本から論文形式にまとめる学生。各種資格試験の勉強をする生徒等。そんな中には、日本語の勉強を始めたばかりの生徒も混じっています。



日本語の勉強を始めたばかりです



大学生も勉強に来てます



暑さの続く8月上旬には、子どもクラブ学習者を代表して二人の高校生と一緒に、三芳町にあるコミュニティラジオ「発するFM」のスタジオに行ってきました。

FICECのCMを録音するためです。15秒の時間制限の中に、彼らの夏休みが詰まっています。

(放送内容)

**FICEC は、彼らを応援しています。** (FM84.0MHZ)

マガンダンハポン  
こんにちは  
ジョージです。  
6年前に日本に来ました。  
大学受験勉強中です。  
私の夢は、世界中の子ども達が、教育を受けられる社会を作る事です。  
夢に向けてがんばるぞー。  
(フィリピン)

アスラムアライクム  
こんにちは  
パキスタンから来た  
ウマルです。  
一生懸命日本語を勉強  
しました。  
今、高校三年生です。  
夏休みは、車の運転試験  
に挑戦します。  
(パキスタン)



## 同行通訳開始！ただいま依頼受付中！

県内に居住する外国人数は年々増加の一途をたどり、言葉の壁が日本における生活のあらゆる場面で外国人の暮らしの支障になっている。日本での生活に欠かせないルールや諸施策・制度等を適正に運用するために、外国人との意思の疎通を図ることは今後ますます、重要になっていくものと思う。

神奈川県NPO法人ミックかながわにみるような、病院・学校・市役所など地域の様々な機関からの要請に迅速に応じるために、まして日本語が不十分な人からの依頼に応えるために、広範なエリアから通訳者を登録し、密に機能できるネットワークの構築が必要と考えるようになった。

そこで、FICECでは今年4月、コミュニティの育成を目的とする「宝くじ助成金」を受け、外国人に対する通訳派遣事業をスタートさせた。

できるだけ様々な言語に応じられるよう、県庁の国際課に協力をお願いしたところ、埼玉県多文化共生ボランティア登録システムの登録者に一斉メールを送信してくれて、通訳者の人材の発掘に力を貸し

ていただき、ふじみ野市を中心に県内各地から73人の登録希望者が集まった。その半数が英語の通訳者だったのは予想外ではあったが、中国語・韓国語・ネパール語・スペイン語・フィリピン語・ポルトガル語・タイ語・フランス語・インドネシア語・シンハラ語の同行通訳が可能になった。

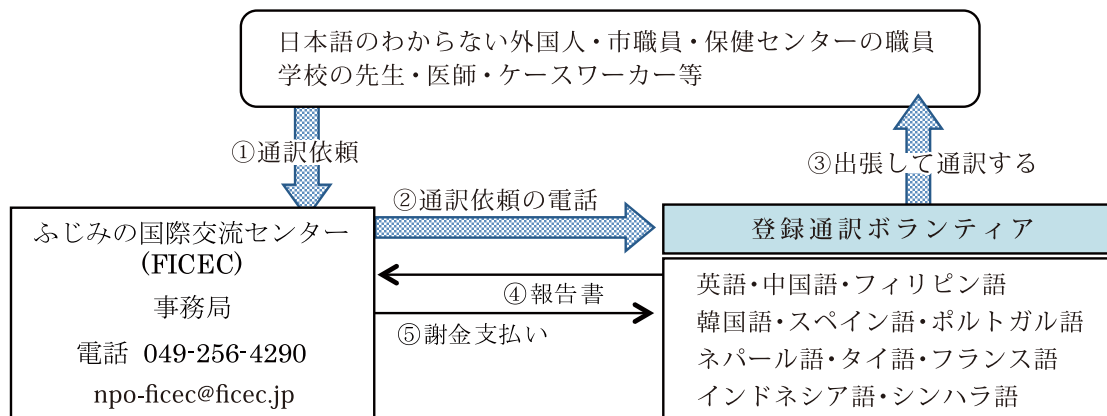
早速、登録してくださった人たちに来ていただき、通訳者の心得の研修を行った。

信頼関係があってこそ自信を持って派遣できる事業なので、時間をかけて意見交換を行い、FICECの思いを伝えた。

次に県内の各機関800ヶ所に12月末まで無料で同行通訳ができることになった通知を郵送した。

通訳を依頼する機関からFICECに依頼の電話が入ると、その内容・言語・場所・時間等を勘案して通訳者リストの中から最適と思える人を選択し、FICECからその人に直接電話をして同行通訳を依頼し、OKを得られたら、依頼元に通訳者名や待ち合わせ方法などの確認電話をする流れになっている。

### 《通訳システムの概要》



病院・母子支援施設・児童相談所・保健センター等の機関や外国人個人からは月平均15件程度の依頼がある。残念なことにベトナム語、ミャンマー語、少数民族語など通訳不可能な言語での依頼があってお断りした例も多い。

通訳終了後も、依頼者・通訳者および利用者とコンタクトを取り、意志疎通が十分であったか否かなどを検証し、より良い通訳制度づくりに反映させてい

きたいと考えている。

観光客4000万人の受け入れと、外国人労働者を50万人増やすために2019年4月には入国管理庁が発足する事が決まった。74言語に対応する自動通訳機が3万円弱で買えるようにもなった。外国人を巡る環境がめまぐるしく変わっていく中で、必要不可欠な事業は何かを模索しつつ、楽しみながら活動を続けていきたい。





### スタッフ紹介

何か貢献できたら、と思っています。

### 室井 伸幸

「はじめまして！」私は5月27日の総会をもってFICECの理事に仲間入りさせて頂きました。FICECについてはまだまだ知らないことばかりですが、理事会を通じて客観的に活動を見て、積極的に発言して、このFICECが益々発展するために関わっていきたいと思っています。

簡単に自己紹介をします。私はふじみ野市内の企業に勤めていて、まもなく働き始めて30年を迎えます。ものづくりの会社なのですが、その中で、働く上でもっとも大切な「安全」に関わることで法律に則った企業活動が求められるので、必要な「届出」などの仕事をしています。私たちが生きていく上で大切なことのひとつに「健康で働くこと」があります。病気やケガでは働くことは難しいです。職場で「事故が起きないような仕組みづくり」を通じて、健康で安心して働ける職場環境づくりを進めています。

FICECとの出会いは、労働組合役員を務めていた時

に知ることになりました。埼玉県労働者福祉協議会の活動に関わっていた時に、永田理事の紹介でFICECへ物品をお届けすることが関わりの始まりでした。その時は「職場の近くに海外から日本へ来た方々の支援をしている組織があるんだな」くらいでした。

私には高校生の子供がいますが、外国語に興味を持ち、外国語が学べる学校に通っていることもあり、FICECは、何かの縁だなと感じました。その子どもは、1年生の夏にイギリスへ行き、2週間でしたが文化や生活の違いを肌で感じてきたようで、これからは海外の方々と関わっていきたくて感じています。子どもが海外でいろいろな方に支えられ、貴重な経験が出来たのは人との出会いだなと感じています。そのようなこともあり、この活動を通じて私も何か貢献できたらと思っています。

新参者ではありますが、FICECの活動に関わっていきたくてと思っていますので、今後ともよろしくお願い致します。



### 国内編

「子どもの頃の思い出を蘇らせてくれる島」

### 野沢 弘子

私の故郷は東京都の八丈島です。

東京から287キロ、伊豆七島の一番南の島です。人口は7,500人、昭和の中頃の約半数に減少した過疎の島です。ひょうたん型をした島は、高温多湿で雨が多いのが特徴です。周りを海に囲まれているこの島は、海風の影響で東京より夏は3~4度涼しく冬は反対に暖かく、過ごしやすい気候です。

産業は観葉植物栽培と漁業を中心に、焼酎やくさやの加工、黄八丈の織物が有名ですが、今は観光サービスが中心で、多くの観光客が島を訪れます。

島を訪れるルートは二つあります。羽田から飛行機で約50分と、竹芝桟橋から約10時間の船旅です。船旅は大変ですが、水平線から昇る朝日を見たい目的や、安価な旅をしたい若者には人気のようです。

観光客は一般のツアー客、サーフィン、ダイビング、釣り客等さまざまです。ホテル、民宿等、宿泊施設も充実しているようです。1年を通して咲いているハイビスカスやストレッチア、冬はアロエの紅い花や、春は色とりどりのフリージアの花が目を楽しま

せてくれます。

島には小学校が3校、中学校が3校、高校が1校ありますが、それ以上の教育を受けたいと思う人や、安定した収入を求めて都会で働きたいと思う人は、高校卒業後島を離れて都会へ出ます。

私も遠い昔、島を離れて東京で就職しました。今でも、年に3~4回帰省します。故郷の昔と変わらない自然や食文化が、子どもの頃の思い出を蘇らせてくれます。

そんな故郷が私は大好きです。



## いつも応援しています

## 「私とFICEC」 中村禎作

私とFICECの出会い、私が会社を定年退職して毎日することもなく退屈していた時に、在日外国人に日本語だけで日本語を教える講習を受けたのがきっかけだったと思います。外国人と接することは会社の研究所にいた頃からたくさんあって、5回の海外出張もコミュニケーションツールは英語が主でした。

ドイツに行った時は英語が通じず、小さいホテルの主人から毎日ドイツ語でドイツ語を教えてもらいながら、昼間は病院で仕事をしていました。在日外国人の方々は、自国で日本語を学習するより何倍かのスピードで日本語を身につけられたかと思います。

会社を定年して2年足らずで私は大学工学部に再就職して、外国人留学生と接する機会を得ました。

留学生の7割が中国人で北京大、精華大からの留学生。2割が韓国、1割がその他の国でした。

タイからの留学生でチュラロンコン大学生は、どの人も日本語が上手で優秀で、日本で学位を取って帰国したら、大学の先生になる人でした。

留学生に高価な装置の使い方を教える時に私がやったことは、コミュニケーションツールとして日

本語か英語の選択をさせることで、悲しいことに日本語でという人はいませんでした。

ウクライナ人が来たとき、ロシア語で「私はロシア語が話せないから、英語か日本語で話して欲しい」と言ったら日本語で良いと言ってくれた時は助かりました。言葉というのは面白いですね。お互いに言葉を交換する事で仲良くなる。朝の挨拶にアッサラームアレイコムとか、また中国人には北京語で片言でも言うと、発音が悪ければ直ぐに直してくれる。

いくつかの国の人が日本で暮らしているなら、お互いの国の文化を尊重し、気軽に挨拶を交わし、声を掛け合って生活して行けば、もっと住みよい社会になると思います。在日外国人の方々はどう思われますか。

私は既に80歳。今の私はロシア極東の人たちと日本との交流が盛んになればと願っています。さし当たっては立川の日露友好協会行事でのロシア正教聖歌の合唱でコントラバスを歌うことしかできません。

もっと元気なら、またウラジバストークに行ってロシア連邦極東大学の学生と話したいと思います。FICECの皆さんをいつも応援しています。

## 見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ

石井ナナエ

○月○日

総会資料作りを始めた。事業報告と決算書作り。ああ、どうしよう215万円の赤字決算。頼みにしていた委託事業収入の一つがゼロだった。このままでは、爪の先に火をともしように蓄えた預金も瞬く間になくなってしまふ。どうしたらいいのか、頭が真っ白になった。このままではいけない。落ち着かなければ。とりあえずご飯を食べることにした。私の特技は、どんな環境でも食欲が落ちないこと。どんなに悩んでいても、何を食べてもおいしい。食欲の秋どころか、食欲の春夏秋冬を地で行っている。腹が減っては戦ができぬ。見送りの3振より空振りの3振。必死で自分を正当化している自分が情けない。

○月○日

J大学地域連携研究室から外国人の防災に関する意識を知りたいと頼まれ、日本語教室のスタッフにお願いして学習者にインタビューしてもらった。半数の人は地震を体験しているが、地震にあった時、最初に何をするかわからない、外に出る、机の下、部屋の角という答え。防災バックを備えているのは2人

だけだった。避難する場所を知っていたのは4人で、誰も防災関連の行事に参加したことはなく、近くに頼れる友人がいないという。防災に関する多言語での情報提供の必要性を強く感じた。

○月○日

学校に行かずに同国人同士でたむろしている外国人中学生の事が心配でならない。フィリピン人スタッフに相談したところ「日本語だらけの授業についていけないのです。働ける年齢になるのを待っているんです」と言う。

日本語の読み書きができないと就ける仕事は極端に限られる。社会はもっと本気で彼らの学習の権利について考えなければいけないと思う。

滋賀県湘南市は日本語の基礎を教える教室を市教委が運営している。小中学校に入学・編入する前に原則3ヶ月そこで学ぶ。

日常会話に1、2年。教科学習には5～7年必要と考えると、湘南市の3ヶ月が十分とは言い難いが「教室で孤立する子をなくす」という市教委の姿勢を日本中で真似して欲しい。



## ○第20回総会が開かれました

5月27日日曜日、上福岡西公民館において第20回総会が開かれました。富士見市、ふじみ野市、三芳町の各首長をはじめ、たくさんの会員の皆様に参加していただき、和やかな雰囲気の中で無事に終了しました。

これまでハローフレンズで連載してきた「FICECを卒業した子どもたち」の写真展も同時に開催し、その中から二人の中国人女性と一人のパキスタン女性にFICECの思い出や現在の様子などについて、スピーチを行っていただきました。三人ともすっかり聡明な大人の女性に成長されていたのが、印象的でした。

その後短い時間でしたが中国、韓国、台湾、パキスタンの料理を囲んでおしゃべりの輪ができました。



(左から)三芳町、ふじみ野市、富士見市の各首長



石井ナナエ理事長のスピーチ



事業報告を聞く会員



「FICECを卒業した子どもたち」写真展の一部



懇親会では、キムパブ、パキスタンのグリーンカレー、焼小籠包や手作りケーキなどを並べました



### FICECの料理教室

FICECでは、スタッフ、外国人講師による料理教室を開いています。「台湾料理教室」、「パキスタン料理教室」など好評でした。次回は10月17日(水)「韓国料理教室」を開催します。お知らせはFacebookで行っています。どなたでも参加できますので、参加ご希望の方は、FICEC ☎049-256-4290 までお申し込みください。お待ちしております。

#### 5月台湾料理



ルーロー飯、バンバンジー、卵とトマトスープなどを作りました

#### 7月中国料理



上福岡で料理店を営む中国人講師を招いての皮から手作り水餃子

#### 8月パキスタン料理



ほうれん草のカレー、豆と茄子のカレーの2つを作りました



餃子の皮を作成しているところです。初めて作ったので、皮の形を丸くのはずすのが難しかったです。



ヨーグルトのサラダとお米のデザートも作りました。沢山の人が参加してくださり、大盛況でした。

## ○社会貢献者表彰式典にスタッフが出席しました



7月6日に帝国ホテルで、公益財団法人社会貢献支援財団主催の社会貢献者表彰式典があり、FICECからはスタッフ12人が出席してきました。当日は、推薦していただいた埼玉県国際課の職員の方も出席していただきました。



### ボランティア交流会

日頃、FICECを応援していただいている  
ボランティアの皆様へ

今回、FICECの「国際サロン」ではボランティアの皆様とのお茶会を設けたいと思います。いつもセンターの色んなところで頑張ってくださってる方や、センターへ登録はしたもののまだセンターの活動に参加したことがない方、ぜひお茶会に参加してください。

ボランティアの皆さん全員が集う機会が少ないので、このお茶会で皆さんの「ボランティア活動での話」や「これからの活動」など、お話を聞かせてください。

初めての方大歓迎です。

日時:2018年10月13日(土)14時~16時

場所:ふじみの国際交流センター

参加費:無料(お菓子など持ってきて下さると嬉しいです)

\*当日、お茶とお菓子を用意します。

担当:安 銀柱(アン ウンジュ)

問い合わせ:049-256-4290(FICEC)

### 国際交流フォーラム2018 世界への「とびら」

とき 2018年9月15日(土)11時30分から  
ところ 富士見市 キラリ☆ふじみ

FICECではバンブーダンスとワイワイトークを担当します。

他にも民族衣装の試着、太鼓の体験、世界のお茶体験、フラワーアレンジや篆刻などの体験、ステージでの世界の歌や踊りなど外国の文化にふれあい、交流を楽しめる企画が盛りだくさんです。



FICECの活動を紹介するパネル展もあります。

### 平成30年度総会のお知らせ

日時:平成30年11月18日(日)10:00~

場所:ふじみの国際交流センター

定款の変更に基づき、今年度は平成30年4月1日から9月30日までを一会計年度にしました。そのため11月18日(日)に総会を行います。





FICECの活動をご支援ください  
**会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

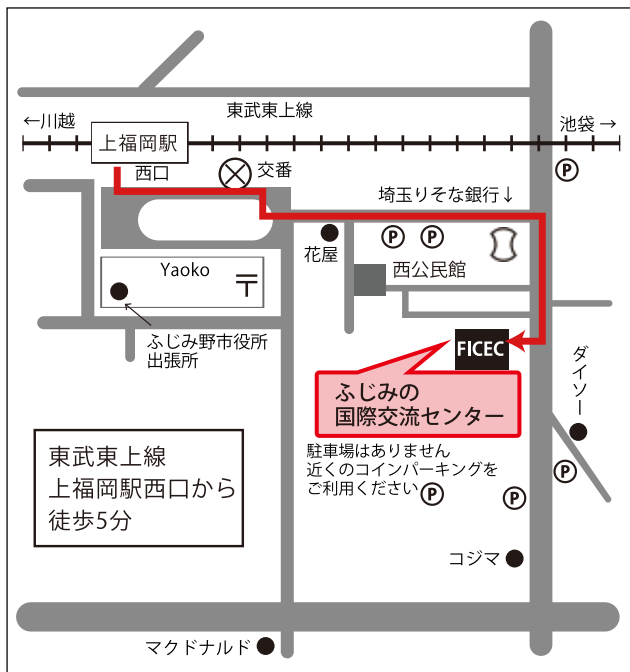
郵便振替口座: 00110-0-369511  
 口座名: ふじみの国際交流センター

**外国人生活相談 無料**

月曜日～金曜日 10:00～16:00  
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
 FICECをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人  
**ふじみの国際交流センター**  
 〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291  
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々**  
 ご支援ありがとうございます

●2016年4月1日～2018年9月20日(順不同・敬称略)  
 佐藤光江、樟山直美、加藤久美子、立麻肇子、安部幸枝、金澤国勝、佐藤義治、戸塚成子、駒形一夫、神田順子、邱亜蘭、吉永、鈴木譲二、尾浦邦彦、新井良司、栗嶋三千代、村山光代、金田康好、木村不二雄、マストラ、ニーランティ、市川波穂、阿澄康子、小林暁美、湯澤直美、市川まなみ、松下敏恵、深見水季夫、本多香、竹内直江、田中つや子、中山明子、上島直美、矢澤美紀、寺村璧如、新井順子、森田信子、木村澄江、松村芳枝、石塚雄康、木場ひろみ、安銀柱、江科、太田原裕、岩田愛子、伊藤真弓、李李銘、坪田幹男、小熊一雄、粕谷光宏、中村禎作、野澤弘子、市川いずみ、金子佐記子、島田道子、新井洋子、佐藤裕悦、八重樫紀久枝、大室昭浩、仲野谷美恵、星野秋梅、小林久美、鄭玄淑、石井ナナエ、岩田仁、長谷川正江、小熊千寿子、穴沢エミリン、山畑博子、荒田光男、山崎友理、佐竹裕子、山根健吾、内藤忍、川口ひさこ、湯浅典人、富田恵子、熊谷洋興、半田栄子、加藤由里子、林田信幸、権田貴久子、森下理恵子、沼田伊久俊、森田有美子、山口勇、遠藤慧子、福吉真邦、西川力藏、酒井有香、大澤エミリ、水井ロウビミン、尾崎功、吉井ジュリエッタ、秋本ノエミ、山口満江、柳ザヒ、茂木久美子、高橋真梨子、近澤エルザ、狩野照乃、榎府憲太、Restitu Jr Mojado、(株)美好、東入間地区遊技業防犯協力会、かめのり財団、一食推進委員会、朝日子どもの貧困助成事業、(株)吉岡

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

＝ ふじみの国際交流センターサービス案内 ＝

外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費	
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円(材料費別途)	
講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円+交通費 (活動運営のためご協力ください)	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等		内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作		
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ	
	その他文書	A4 3,000円/ページ	
通訳	半日5,000円+交通費		
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日	

**ボランティア活動に、ご参加ください**

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。